

目 次

ごあいさつ	岡山県習字教育研究会	会長	高橋 三穂
はじめに	岡山市立箕島小学校	校長	大木 進

研究要項

研究大会日程	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第1学年学習指導案	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
第3学年学習指導案	・・・・・・・・・・・・・・・・	4
第6学年学習指導案	・・・・・・・・・・・・・・・・	7
研究発表	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 1
講演	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 3

研究集録

I 研究の概要

1 研究主題	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 5
2 研究主題について	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 5
3 主題設定の理由	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 6
4 研究構想図	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 7
5 研究内容	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 8
6 学習過程	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 8
7 研究組織	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 8
8 研究経過	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 9

II 研究の実践

1 低学年部の実践	・・・・・・・・・・・・・・・・	3 1
2 中学年部の実践	・・・・・・・・・・・・・・・・	4 2
3 高学年部の実践	・・・・・・・・・・・・・・・・	5 1
4 成果と課題	・・・・・・・・・・・・・・・・	6 0

おわりに	・・・・・・・・・・・・・・・・	6 1
------	------------------	-----

書写学習年間指導計画 第1学年～第6学年

1 題材 ねんがじょう

2 目標

- 自分のめあてをもち、相手を思いながら取り組むことができる。
- 文字の形や大きさ、中心に気をつけて、正しい姿勢と用具の持ち方で書くことができる。
- 自分や友達のまとめ書きを見て、よくなったところを見つけることができる。

3 指導計画(全2時間)

第1時 文字の形に気をつけて練習する。

第2時 文字の大きさや中心に気をつけながら練習し、清書する。(本時)

4 指導上の立場

- 第1学年及び第2学年での書写硬筆の指導事項に「姿勢や用具の持ち方を正しくして丁寧に書くこと」があげられている。

本題材は、これまでに学習してきた字形の整え方や用具の使い方に気をつけながら、相手を意識し、心をこめて読みやすくていねいに書くことを目標としている。

1年生の児童は、実生活の中で、年賀状の交換を体験したことのある児童もいるかと思われる。年賀状について話し合う中で、児童は「もらえたらうれしいな」「〇〇さんに書きたいな」という思いをもつであろう。その思いを伝えるためには、相手のことを考えながらていねいに読みやすく書くことが必要である。文字を書くことにもずいぶんと慣れてきたこの時期に、相手に読みやすく伝えるためには、文字の形や大きさ、中心に気をつけることが大切であると感じることができ、実生活に生かしていくことのできる「年賀状」という題材は、学習に有効であると考えた。さらに、まとめとして、葉書に文字を書くことで、書く意欲がより高まるのではないかと思われる。

- 本学級の児童は、書写タイムや書写の授業では、ていねいに書こうとする意識が見られ、練習教具の使い方にも慣れて、楽しく喜んで取り組んでいる。また、文字が上手に書けるようになったり、教師や友達によくなったところを褒めてもらえたりすることをとても喜び、学習の励みとしている。しかし、正しい姿勢や鉛筆の持ち方などがあまり定着していない児童も見られる。書写以外となると、ていねいに書こうとする意識も少ないため、姿勢も崩れやすく文字や文章が乱雑になりがちである。

そこで、相互批評の場を設定することで、自分と友達の伸びを感じ、文字を書くことへの励みとしたい。また、「年賀状を相手に向けて書く」という活動を通して、実生活における文字についても、読みやすくていねいに書くことが大切であるということに気付かせたい。

- 本校の研究テーマ「主体的に学び、基礎・基本を身につける子どもの育成～自らめあてをもち、書く楽しさや進歩した喜びを味わう書写学習～」に迫るために、本時の題材は、次のように学習過程や評価の工夫を行う。

つかむ活動では、葉書にまとめ書きをすることを確認し、年賀状を送る相手を思い浮かべることによって、意欲的に取り組むことができるようにしたい。また、文字の大きさや中心がそろっていない例を提示することで、読みやすい書き方に意識を向けた後、前時のまとめ書きを自己批評することにより、自分なりのめあてをもつことができると考える。

すすめる活動では、清書をする葉書と同じように中心線のみ入っている練習用紙、文字の大きさをそろえやすくするため罫線も加えた練習用紙の2種類を用意する。その2種類の練習用紙から、児童自身が自分のめあてに沿った練習用紙を選び練習をすることで、主体的に学ぶことができると考える。また、「書写体操」をすることで書く意欲を高め、正しい姿勢や用具の持ち方などを確認したい。そして、書いている間も正しい姿勢や用具の持ち方について声をかけたり、児童を称揚したりすることで、意識が持続するようにしたい。

たしかめる活動では、葉書にまとめ書きをすることで、集中して真剣に書くことができるようにしたい。試し書きとまとめ書きを比べ、自己評価・相互評価をすることで、進歩した喜びを味わい、互いによくなったところを認め合うことで、書くことの楽しさやこれからの励みにつながるのではないかと考える。

また、本題材終了後は生活科へとつなげ、宛名や絵などをかき、年賀状を完成させたい。

5 本時案 (第2時)

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 正しい姿勢と用具の持ち方で、文字の大きさや中心に気をつけてていねいに書くことができる。 ○ 自分や友達のよくなったところを見つけ、伝え合うことができる。 		
学習活動	教師の支援	評価内容	準備物
1 めあてもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時を思い出させ、本時はまとめ書きとして、葉書に「あけましておめでとう」を書くことを知らせる。 ○ 絵を見て、フェルトペンの持ち方と使い方を思い出させることができるようにする。 ○ 受け取る人が喜ぶ文字とはどんな文字かについて触れ、例を提示したり前時のまとめ書きと手本を見比べさせたりすることで、文字の大きさや中心に気をつけることを意識させる。 ○ めあてをより明確にするために範書をする。 		フェルトペン ワークシート 持ち方の絵 文字の大きさ・中心のそろわない例の掲示
	もじの大きさや中しんにきをつけて、こころをこめてねんがじょうをかこう。		
2 練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ もっと上手に書きたいところにするしをつけることで、自分なりのめあてをもつことができるようにする。 ○ めあてをもつことが難しい児童には、教師が助言をする。 ○ 練習用紙の説明をし、自分のめあてに沿った練習ができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・罫線と中心線入り用紙 ・中心線入り用紙 ○ 書写体操をすることで、正しい姿勢やフェルトペンの持ち方を確認してから書くことができるようにする。 ○ 机間指導を行い、意欲の持続を図るようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・文字の大きさに気をつけて書けていない児童には、罫線と中心線入り用紙を使うように促し、大きさを意識できるように助言する。 ・文字の中心に気をつけて書けていない児童には、手本と自分の中心線のズレを確認させ、中心を意識して書くことができるように助言する。 ・文字の大きさや中心に気をつけて書けているが、文字の形に気をつけて書けていない児童には、前時の字形練習用紙を渡し、練習するように促す。 	文字の大きさや中心に気をつけて書いている。	練習用紙
3 まとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気をつけることを確認し、相手を思い浮かべることで、意欲を高めてから葉書にまとめ書きができるようにする。 ○ 前時と本時のまとめ書きを比べ、よくなったところを見つけてシールを貼り、自己評価をする。 ○ 隣同士で見せ合い、よくなったところにシールを貼り、発表することで、充実感やうまくなった喜びを感じ取ることができるようにする。 ○ ふりかえりをし、本時のまとめとする。 	前時と本時のまとめ書きを見比べて、よくなったところにシールを貼っている。	葉書 がんばったよシール ほめほめシール 教材提示装置

平成20年11月27日(木) 10:00～10:45 指導者 山本 悟

1 題材 ひらがなの曲がりとはらい「つり」

2 目標

- 自分のめあてを見つけ、めあてにあった練習方法を選び、すすんで練習することができる。
- ひらがなの曲がり、はらいの筆使いに気をつけて、ていねいに書くことができる。
- めあてをもとに自己評価や相互評価を行い、自分や友達の伸びを見つけ合うことができる。

3 指導計画(全2時間)

第1時 ひらがなの曲がりとはらいの筆使いを知り、自分のめあてをもって練習する。(本時)

第2時 自分のめあてに沿った練習方法を選び、ていねいに書く。

4 指導上の立場

- 第3学年及び4学年での書写毛筆の指導事項に「毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組み立て方に注意しながら、文字の形を整えて書くこと」があげられている。

本題材は、ひらがなの曲がりとはらいの筆使いを理解し、「つり」の字形を整えて、ていねいに書くことをねらいとしている。指導事項にもあげられているように「点画の筆使い」では、3年生にとってはじめて学習するひらがなの「曲がり」と「はらい」であり、今までに学習した横書「一」や縦書「丨」を発展させた筆使いである。特に筆の穂先の動きが重要となってくるため、文字習得期に一点一画を確実におさえて書くという意識を育てるのにふさわしい単元であると考えられる。

- 本学級の児童は、書写の学習で上手に書きたいという意識は高い。一学期には「一」「川」「日」を学習し、毎時間、試し書きと手本を自己批評しながら、自分自身のめあてを確認してまとめ書きを行ってきた。しかし、教科全般において集中して学習することを苦手とする児童が多く、書写学習においても筆使いに注意しながら書く意識はあまり高まっていない。また、上手に書きたいという気持ちばかりが先行し、自分のめあてを振り返りながらゆっくりとていねいに書くというよりも、早く何枚も書くことで自分自身の納得できる作品を仕上げる傾向がある。

そこで、試書と手本を自己批評する場を十分にとって課題を見つけ、自分にあつためあてを明確にすることで、意欲的に、また、ていねいに活動することができるように考える。

- 本校の研究テーマ「主体的に学び、基礎・基本を身につける子どもの育成～自らのめあてをもち、書く楽しさや進歩した喜びを味わう書写学習～」に迫るために、本時では次のように学習過程の工夫や評価の工夫を行う。

つかむ活動では、手本や教師による基準の説明を参考に試し書きを自己批評し、どこに着目すればよいか話し合うことで「曲がり」と「はらい」にめあてを絞り込み、どの児童にもめあてがもてるようにする。また、めあてを色で示し、「曲がり」では赤、「はらい」では青のシールを手本に貼ったり、腕に色ゴムをつけたりして、自分自身や友達にも視覚的に分かるようにすることで、一人一人のめあてが明確になり、めあてを意識して学習する意欲につながると考えられる。

すすめる学習では、児童一人一人が、めあてにあった練習用紙を選択し、練習することで、主体的に学習を進めることができるようにしたい。その間、教師は机間指導を行い、めあてを確認しながら、姿勢、筆の持ち方、筆使いが不十分な児童に支援することで、基礎・基本を徹底したい。

たしかめる活動では、手本に貼ったシールや腕につけた色ゴムを見て、めあてを再確認し、全体的に上手く書くという意識を強調させず、めあての達成をすることに集中させることで、まとめ書きをすることができると思う。評価では、試し書きとまとめ書きを自己評価、隣同士で相互評価し、めあてが達成された時にはごほうびシールを手本に貼ることで自分自身の伸びや友達のよさを感じることができると思う。また、ごほうびシールが貼れなかっためあては、次時の学習のめあてにつながり、明確にすることができると思う。

5 本時案（第1時）

目 標	<p>○ 自分のめあてをもち、めあてにあった練習方法を選び、すすんで練習することができる。</p> <p>○ ひらがなの曲がりとはらいの筆使いに気をつけて書くことができる。</p>		
学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価 内 容	準 備 物
1 学習のめあてをもつ。	<p>○ 試書をし、今まで書いた字とどのように違うかについて発表することで、ひらがなの「曲がり」や「はらい」について気づくようにする。</p> <p>○ 手本を配り、試し書きと比較し、自分自身の課題をもつようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童一人一人が気づいたことを発表する。 ・ 話し合う中で、ひらがなの「曲がり」と「はらい」に着目させ、めあてを絞り込むようにする。 		<p>手本 お手本君 拡大手本 試書用半紙</p> <p>めあてシール めあて色ゴム</p>
<p>ひらがなの「まがり」と「はらい」の筆使いに気をつけて書こう。</p>			
	<p>○ 自分のめあてを決め、「つり」を書く上での大切なポイントや練習方法を知ること、課題解決するための学習の見通しをもつようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ めあての色分けをする。 「まがり」赤, 「はらい」青 「まがり」と「はらい」赤・青 ・ めあての決定をする。 手本にめあてシールを貼る。 めあて別に色ゴムを腕にはめる。 ・ 動画コンテンツを利用し、めあてを達成するためのポイントを知る。 <p>【ポイント】</p> <div style="border: 2px dashed gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「つ」について</p> <p>① 「つ」の始筆は軽く入れ、やや</p> </div>	<p>自分のめあてをもち、色ゴムを手首につけている。</p>	<p>動画コンテンツ</p>

	<p>右上がりに運筆する。</p> <p>② 曲がりの部分は、ゆっくりと曲げる。</p> <p>③ 終筆は、穂先をそろえるように、すうっとはらう。</p> <p>「り」について</p> <p>① 左右の画が、向かい合って、ゆるやかにそろえるように書く。</p> <p>② 二画目の始筆は、一画目のはねとつながるように書く。</p>		
	<p>○ 「まがり」「はらい」の練習用紙の説明をする。</p> <p>・「まがり」赤について</p> <p>「つ」の曲がり 骨書き練習用紙「つ」 かご書き練習用紙「つ」 水書板練習</p> <p>・「はらい」青について</p> <p>「つ」のはらいと「り」のはらい 骨書き練習用紙「つ」「り」 かご書き練習用紙「つ」「り」 水書板練習</p>		<p>練習用紙 まがり用 はらい用 水書板</p>
<p>2 練習する。</p>	<p>○ めあてを変更したい場合は変えてもいいことや練習方法がなかなか選べなかったり、めあてがはっきりしていなかったりする児童には練習が進められるように支援する。</p> <p>○ 意欲的に組んでいる児童に対しては、向上が見られる点を称揚し、発展的な課題練習に取り組むようにする。</p> <p>○ 姿勢、執筆、筆使いなどに気をつけて取り組めるように声かけをする。</p>	<p>自分のめあてにあった練習用紙で練習している。</p>	
<p>3 まとめをする。</p>	<p>○ 基準をおさえながら範書をし、まとめ書きにはいるようにする。</p> <p>○ 姿勢、筆の持ち方、めあてを確認し、ていねいに書くように助言する。</p> <p>○ 試し書きとまとめ書きを比較し、手本にシールを貼ることで自分自身の伸びを実感したり、友達の伸びを見つけたりできるようにする。</p>	<p>自分や友達の試書とまとめ書きを比較して、伸びを発表している。</p>	<p>大型水書板 まとめ書き用紙 シール</p>
<p>4 次時の学習を知る。</p>	<p>○ 次時の学習について知る。</p>		

1 単元 掛け軸の言葉を書こう

2 目標

- 文字の字配りを考えて、めあてに合う手本を作ったり執筆姿勢を選んだりして、意欲的に掛け軸を作ろうとすることができる。
- 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決め、字配りよく書くことができる。
- 友達の文字にアドバイスをしたり、友達の良くなったところを互いに認め合ったりすることができる。

3 指導計画(全4時間)

- 第1時 いろいろな大きさの紙に掛け軸の言葉を試し書きし、学習の計画をたてる。
- 第2時 下敷き・練習用紙を作る。
- 第3時 自分の作った下敷きを使って書く。
- 第4時 字配りを考えながら、清書する。(本時)

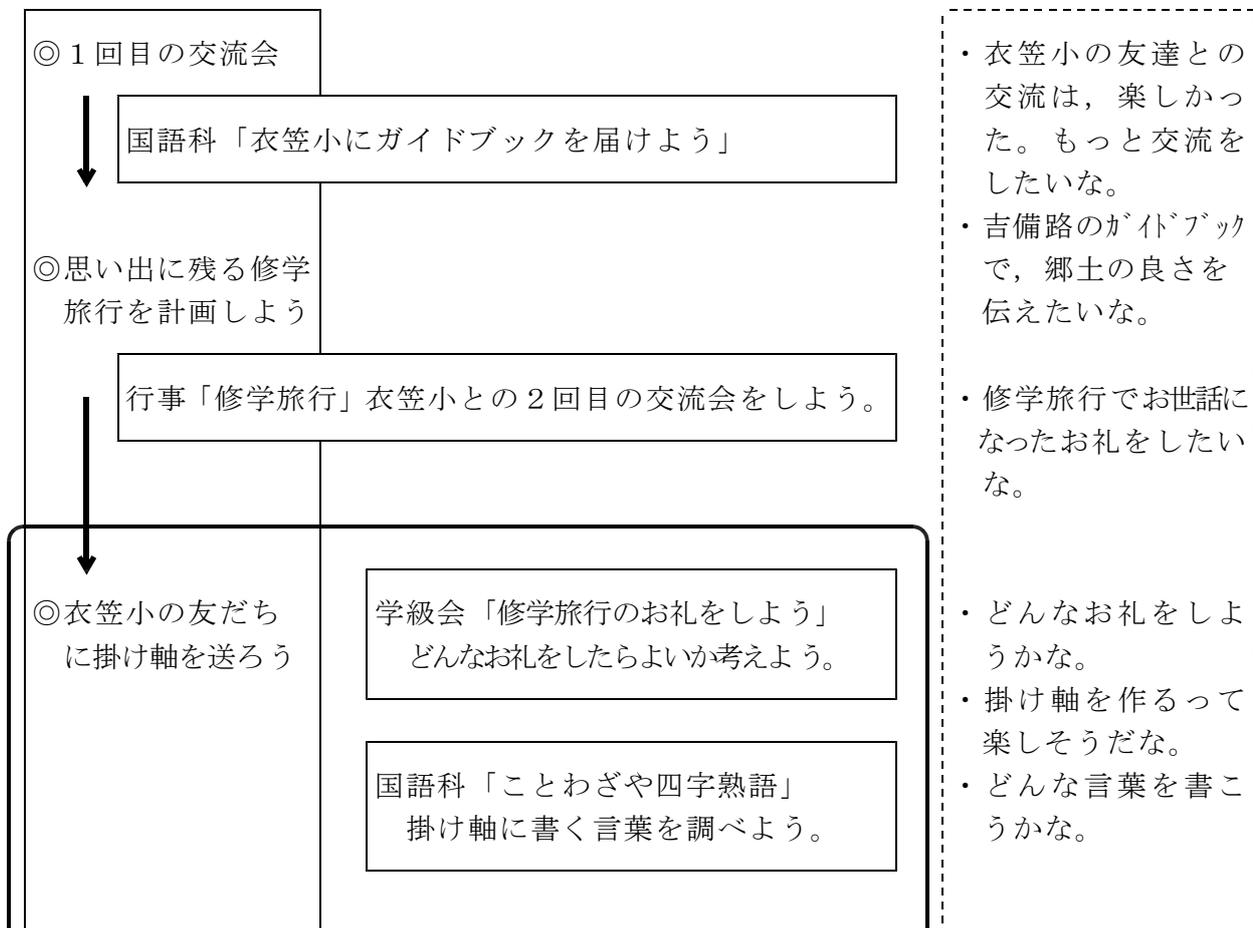
4 関連構想図

<総合的な学習の時間>

<教科・領域等>

<児童の意識>

「衣笠小との交流をしよう」



・お手本を作ろう

国語科書写「掛け軸の言葉を書こう」
(全4時間)

・手紙を添えて、
感謝の気持ちを
届けよう。

図画工作科「掛け軸を作ろう」
はんこを作ったり、表装をしたり
しよう。

・どうすれば、うまく書けるだろう。
・字配りに気をつけて書いてみよう。

・はんこを作ったり表装をしたりして、心のこもった掛け軸にしよう。
・手紙も書こう。

5 関連的な構想について

本校の6年生は修学旅行を核として、京都の衣笠小学校との交流を数年継続してきた。本校に訪問した際の交流活動では備前焼の制作に取り組んだり、衣笠小学校を訪問した際は京都の文化財を紹介してもらったりしている。国語科「ガイドブック作り」では、衣笠小学校の友達に吉備路のガイドブックを送るという活動にも取り組んだ。

そこで、この交流活動の一環として、総合的な学習の時間と国語科、図画工作科等と関連させて、掛け軸作りに取り組ませることで、児童一人一人が「衣笠小学校の友達に修学旅行のお礼をしよう」という目的意識をもって意欲的に活動することができる考えた。

掛け軸に書く言葉を決めるために、国語科や総合的な学習の時間に、図書資料やインターネットで情報収集をしたり、総合的な学習の時間や国語科書写で、自分たちで書く文字の手本や下敷きなどを作ったりして、主体的な活動ができるようにする。さらに、図画工作科の時間に、裏打ちし手作りの落款を作って押すことで、作品を仕上げた満足感をも味わわせたい。

このように、衣笠小学校の友達との交流をより深めるとい目的意識をもつことで、意欲的に活動することができるよう支援していきたい。

6 指導上の立場

- 第5学年及び第6学年での書写毛筆の指導事項に「点画の筆使いや文字の組み立て方を理解しながら、文字の形を整えて書くこと」「字配りよく書くこと」があげられている。

本単元は、これまでに学習してきた点画の筆使いや文字の組み立て・字配りについての発展的学習として、児童一人一人が、書く文字を考え用紙を選び、選んだ用紙と文字との関係に注意して字配りよく書くように計画している。

そこで、児童一人一人が学習の見通しをもつことが重要となるため、本単元の1時目に、掛け軸に書きたい文字を様々な大きさの用紙・筆を使って試し書きをさせる。その活動の中で、児童は「もっと良い文字を書きたい」「もっと大きな筆や紙を使いたい」「手本や練習用紙が必要である」「友達と練習したい」などという思いをもつであろう。その思いを次の活動につなげ、一人一人が学習の見通しをもつことができるようにしたい。

文字の大きさや字配りなどについての既習事項の理解がより重要となるため、「書写コーナー」への掲示も有効に活用したい。

また、似ためあての児童がグループで練習することで、学習意欲が高まり、相互評価がしやすくなると考える。

- 本学級の児童は、1学期に「飛ぶ」で文字の大きさを考えて字配りよく書くこと、2学期に「夕やけ雲」で余白を考えて字配りよく書くことについて学習した。教師の用意した練習用紙（籠書き・骨書き・枠書き等）の中から、自分のめあてに合ったものを選択して、練習に取り組むことはできていたが、漢字とかなの大きさや文字の中心、余白、字間などに、日常的に注意して書くことができる児童はまだ少ない。

そこで、既習事項を生かし、自分たちで手本や練習用紙、下敷きを作ることで、字配りについて強く意識するとともに、より主体的に学習に取り組むことができるようにしたいと考える。

また、文字を上手に書きたいという思いはあるものの、自分の書く文字にあまり自信がもてない児童もいるので、2学期から、付箋を使ってよいところや伸びを相互評価できるようにした。他児から賞賛されて、うれしそうな顔をしている児童も多く見られるようになり、少しずつ自信につながっている。本単元では、児童それぞれが違う文字を書くため、友達との比較ではなく、自分の伸びをより見つけやすくなるのではないかと考える。

- 本校の研究テーマ「主体的に学び、基礎・基本を身につける子どもの育成～自らめあてをもち、書く楽しさや進歩した喜びを味わう書写学習～」に迫るために、本時では次のように学習過程の工夫や評価の工夫を行う。

つかむ活動では、めあてごとに練習する場を設定し、自分のめあてを明確にすることで、自分がどのように字配りに気をつけて書けばよいか分かり、意欲をもって学習に取り組むことができると思う。

すすめる活動では、以下の工夫をし、見通しをもち基礎・基本を押さえながら練習することができるようにする。

- ① 下敷きや字形練習用紙を自分たちで用意することで、自分の見通しをもち学習をすすめることができるようにする。
- ② ひじを挙げてのびやかに文字を書くことが定着していない児童には、立位の執筆姿勢を勧めることで、正しい姿勢を定着させる。また、文字の大きさ・余白などの字配りについての掲示をしておくことで、字配りについていつでも確認できるようにする。
- ③ 練習の途中にアドバイスをする時間を設けて、グループ内で児童相互の学び合いができるようにする。

たしかめる活動では、試し書きとまとめ書きを比較して自己評価・相互評価をすることで、自分自身の伸びを知ったり自分とは違った友達の良さを感じたりすることができ、進歩した喜びを味わうことにつながると考える。また、めあて別グループ（文字の大きさ・文字間・行間・余白）で評価することにより、個々のめあてに沿った相互評価がより具体的にできるのではないかと考える。

7 本時案（第4時）

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 字配りに気をつけて書くことができる。 ○ 自分や友達の良いところを見つけ、伝え合うことができる。 		
学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価 内 容	準 備 物
1 めあてを確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に決めためあてを発表し、自分のめあてを意識して取り組むことができるようにする。 ○ それぞれのめあてが分かるように、体育館の壁にめあてを表示しておく。 <ul style="list-style-type: none"> ・文字の大きさ ・上下・左右の余白 ・行間・行の中心 ○ 見通しをもって学習できるように、練習時間を知らせる。 		めあての表示
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分のめあての字配りに気をつけて書こう。 </div>			
2 練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のめあてに合った練習の場へ移動し、執筆の姿勢を決めさせることにより、意欲的に取り組めるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・作業台（立位） ・児童机（座位） ・床（正座） ○ 前時の反省をもとに作り直した下敷きを使って、めあてに向かって練習することができるようにする。 ○ 字配り以外に字形について練習したい児童には、練習用紙を用意させ、自信をもって文字を書くことができるようにする。 	下敷きを生かして作品を書いている。（観察）	作業台 児童机 児童作成の 下敷き、 練習用紙
3 友達にアドバイスをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2人組みで書字過程を見合うことで、アドバイスしやすくする。 ○ アドバイスタイムを設定し、グループ内で児童相互の学び合いができるようにする。 		
4 まとめ書きをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ アドバイスタイムでの学び合いをもとに、再度めあてを意識して、まとめ書きをするように助言する。 	文字の大きさ、余白、中心などに気をつけて書くことができている。（作品）	
5 よいところを見つけ合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全員の試し書きとまとめ書きを並べて掲示し、伸びを見つけやすくする。 ○ 自分や友達のよいところ、伸びた点を付箋に書いて貼り、互いのがんばりを認め合い成就感をもてるようにする。 	自分や友達のよいところ、伸びた点を具体的に理由を付けて書いている。（付箋）	付箋

1 研究主題

「主体的に学び、基礎・基本を身につける子どもの育成」

—自らめあてをもち、書く楽しさや進歩した喜びを味わう書写学習—

2 研究主題について

「主体的に学び、基礎・基本を身につける子どもの育成」

○児童一人一人が自らの課題を見つけ、その解決に向けて学習を進め、自分なりの解決方法を選択しながら、課題を解決していこうとする姿を「主体的に学ぶ姿」と捉える。授業の中で課題追求や課題解決の楽しさを繰り返し経験させ、達成感や成就感を味わうことのできる授業展開の工夫をすることが大切であると考え。

○児童の「生きる力」をはぐくむために、各教科・各教育活動において基礎・基本の定着を図ることを、本校では指導の重点と考えている。各教科における基礎的・基本的な知識・技能はもちろんのこと、思考力・判断力・表現力等の考える力の育成も基礎・基本と考え、全教育活動で「学習したことがわかった」「もっとできるようになりたい」「学習するのが楽しい」という児童の姿を、追求していく。

この研究主題のもと、岡山県習字教育研究会の研究指定による書写教育の研究を進めるにあたり、書写における研究主題を以下のように設定した。

「自らめあてをもち、書く楽しさや進歩した喜びを味わう書写学習」

○子どもたちは、ある事象に出会ったとき、感動や疑問、追求の思いをもつ。その思いが次の学習につながるものになるよう、教師が見通しをもって活動を組むことで、思いが問題意識にまで高まり、「自分のめあてをもつ」ことができると考える。

書写の学習においても、形式的に手本の字を見て書く技能重視の学習を見直し、「書写の学習が楽しい」「もっと上手になりたい」という児童の思いを大切にしたい。そして、いろいろな思いを問題意識にまで高め、既習事項を活用しながらどのような練習をしたらよいか考えることで、解決の見通しのある自分のめあてをもつことができると考える。

○書写の学習過程の中で、学習の仕方が分かり、主体的に学習する楽しさを実感することは、文字を書く楽しさや文字を書くことへの意欲を高めていくものと考え。また、学習活動を進める中で、文字が正しく整えられている原理・原則を発見する楽しさや文字を正しく整えて書けることの楽しさを味わうことができると考える。

自己評価で技能の上達を実感でき、相互評価で友達から自分の進歩したところを認められる満足感は喜びであり楽しさも増してくる。さらに、書写の学習で学んだことを各教科・行事・日常生活の中に生かすことができた時に得られる充実感も喜びとなると考える。

3 研究主題設定の理由

(1) 社会の要請から

今、教育に求められていることは「生きる力」の育成である。また、新学習指導要領においては、「伝え合う力を高める」ことの重要性が示された。書写指導においても書くことや文字の文化を伝え、書いて伝え合う活動を支える指導が求められている。

現代社会では、パソコンや携帯電話等が普及することにより、文字を手で書く機会が減少し、「手書き文字」が軽視され、文字の乱れが進み、文字を正しく整えて書こうという意識も薄れてきている。日常の書写力を向上させるためには、まず基礎・基本の習得を確実にする必要がある。しかし、知識や技能を教え込み、単に文字を正しく書くことのみを重きをおいた指導は、書字活動に対する意識を高めることにはならない。

そこで、児童が自ら課題をもち主体的な学習をとおして、学ぶことの楽しさや上達した喜びを実感できる書写指導の改善が必要であると考えます。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は、「ひとみ輝く 箕島っ子の育成」であり、「よく考える子」「思いやりのある子」「たくましい子」をめざす子ども像として具現化に努めている。

書写学習においても、課題解決に向かってよく考えることや、友達と励ましあい認め合い向上していこうとする気持ちなどは、学習の基盤となる大切なものである。

そこで、書写学習全般を具現化の一つの場と考え、本校のめざす子ども像に迫りたいと考える。

(3) 児童の実態から

箕島小学校区は岡山市の南西部に位置し、豊かな自然に恵まれた田園地帯である。かつては箕島白桃発祥の地として果樹の栽培が盛んなところであった。また、近隣の早島・茶屋町とともに「花ござの町」としても知られていた地域である。

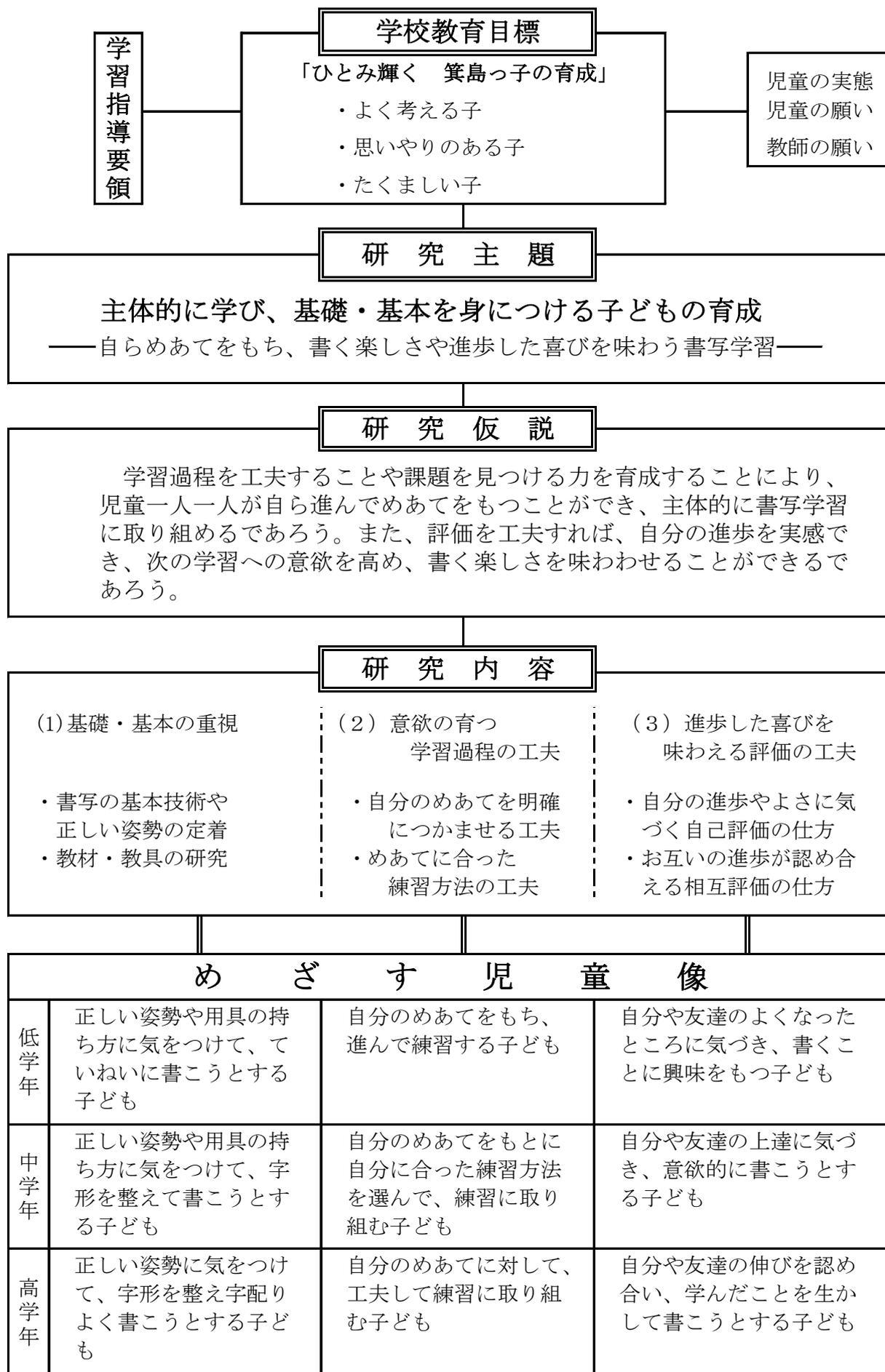
現在児童数は263人で、やや減少傾向にあるものの、保護者は協力的で児童は学習やスポーツに積極的に取り組むことができている。また、コミュニティ活動やPTA活動、子ども育成会活動等を通して学区民の結びつきは大変強い。

児童を取りまく文字環境は多様で、本・雑誌・新聞・テレビ・パソコンなど、様々な文字に出会う機会に恵まれている。しかし、その一方では、自分で文字を書く機会が少なくなっているため、文字を正しくていねいに書くことができにくくなっている。

昨年度のアンケートから、書写の授業が楽しいと感じている児童は半数以上、文字を上手に書きたいと思っている児童は9割という実態が明らかになった。ところが、高学年になると、姿勢・執筆・文字の形に気をつけている児童が減少したり、書写力の差が自覚され、学習意欲がもてなくなる児童が増えたりする傾向が見られた。

このような実態をふまえ、基礎・基本の定着を図り、児童一人一人が文字を書く楽しさや達成感のもてる授業を工夫したいと考えた。また、文字環境を整備し、手書き文字のよさに気づかせ、文字感覚の育成に努めることなども大切にして、研究主題に迫りたいと考えている。

4 研究構想図



5 研究内容

(1) 基礎・基本の重視

書写の基礎・基本を重視し、指導内容を年間計画の中に位置付け、習得させていくことを共通理解し実践することとした。正しい姿勢や執筆が身につくよう、姿勢図を掲示し児童が常に意識できるように学習環境を整えた。また、入門期から基礎・基本が身につくような教材・教具の研究を進めていくこととした。

① 書写の基本技術や正しい姿勢の定着

○姿勢図・執筆図の掲示

正しい姿勢を常に意識づけるため、各教室に姿勢図を掲示する。1・2年生は鉛筆の持ち方図、3～6年は筆の持ち方図も併せて掲示する。



○書写体操や合い言葉の活用

低学年を中心に正しい姿勢、正しい鉛筆の持ち方、書くことへの意欲付けをするために、授業の導入に書写体操を取り入れる。また、学習している文字のポイントを抑えやすくするために、合い言葉を活用する。

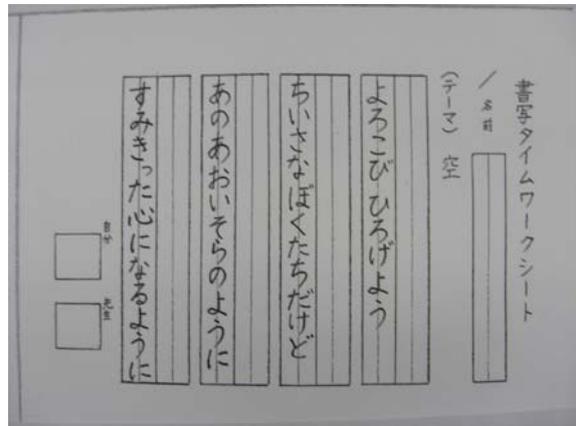
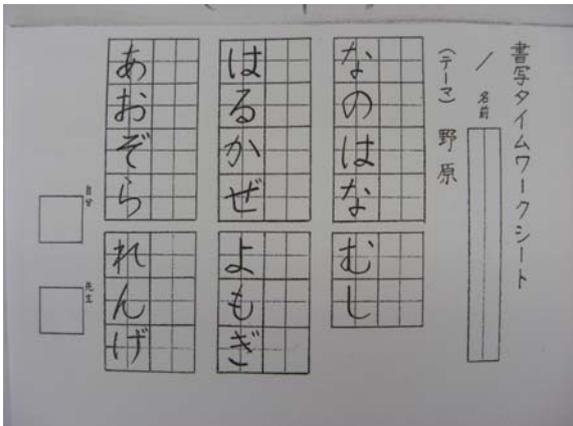
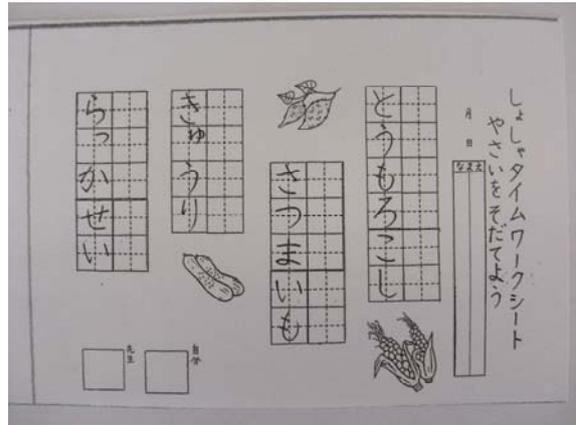
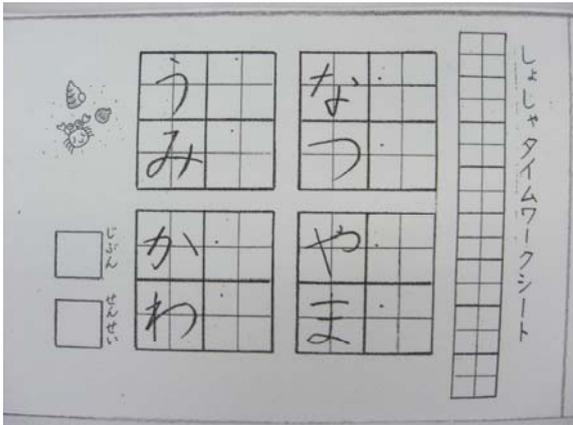


○書写用語の指導

児童が発表の中で書写用語を自然に用いることができるようにするために、始筆・終筆など書写用語を授業の中で教師が繰り返し用いたり、掲示物等の工夫をしたりする。

○書写タイムの実施

毎週木曜日の朝10分間硬筆書写を行う。正しい姿勢や執筆が身につくよう指導する。内容はひらがなを中心とした基礎・基本、書写の授業との関連内容、他教科の関連内容などから、各学年に応じた内容を工夫する。書写タイムで書いた作品は、児童の書く意欲や喜びを高めるため、自己評価と教師の評価をしたものを、書写コーナーなどに掲示する。



○正しい書写用具の使い方

学年の始めに、正しい姿勢と用具の正しい持ち方について指導する。
3～6年は毛筆用具の種類・名称・配置・取り扱い方について指導する。
特に毛筆入門期の3年生では、掲示物やビデオを用いて繰り返し指導する。

○教職員の書写力の向上

授業の中で、教師の範書は、大変効果的である。自信をもって範書できるように校内研修で実技研修を行うことや実技講習会に参加する。



② 教材・教具の研究

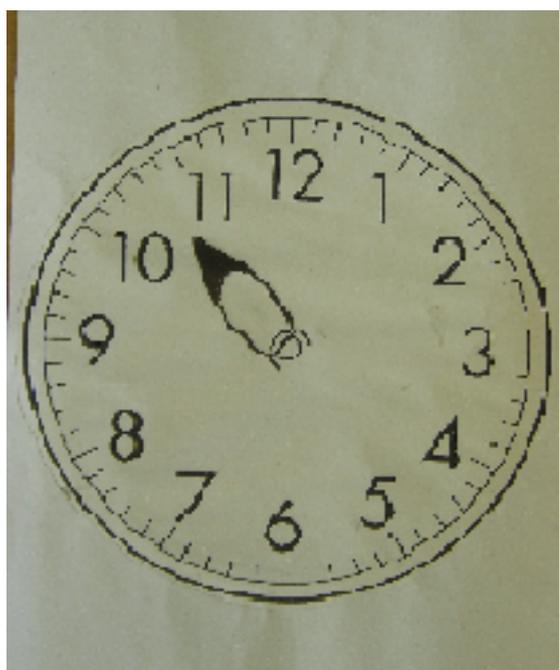
○筆掛け

洗った筆をすぐ掛け、乾燥・保管するために、廃棄の机を利用して筆掛けを製作し、3年生以上のクラスに常設する。



○始筆時計

始筆の穂先の向きを理解したり、始筆の筆使いを身に付けたりするために、掲示物や練習用紙として活用する。



○お手本君

児童が手本に注目しやすくするために、手本を目の前に立てて見ることができる教具として使用する。また、机上の整とんもでき、毛筆入門期の3年生には大変適した教具である。



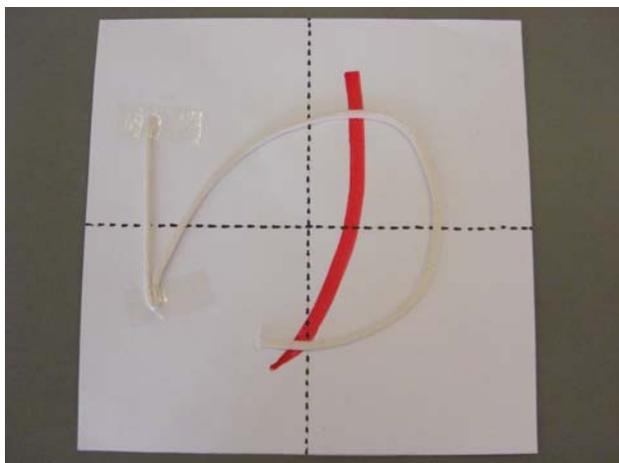
○練習ボード

砂鉄を用いたボードで、繰り返し練習できるため練習意欲が高められる



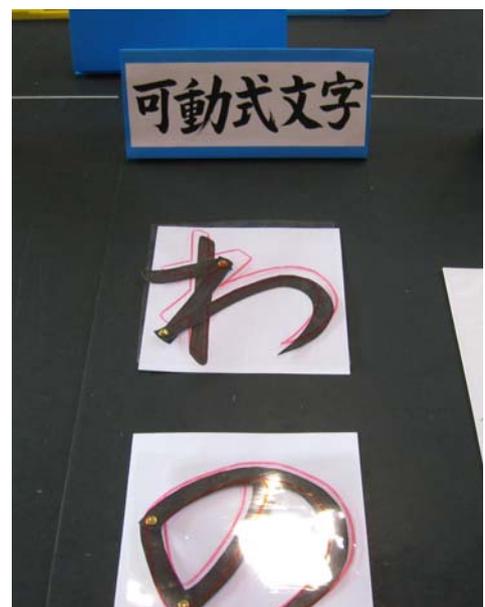
○曲がりの練習のひも

ひもは自由に動く利点があるため、手で操作する教具として有効である。



○可動式文字

「折れ」の指導では、言葉だけの説明では分かりにくいいため、可動式文字を操作することが有効である。



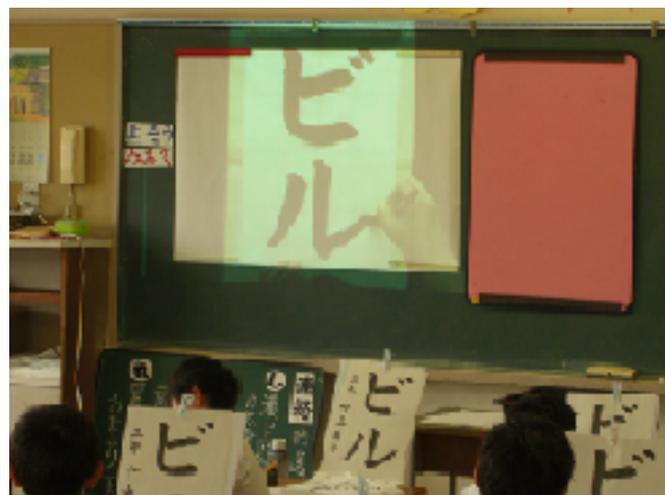
○大判下敷き

1・2年生では、書写の時間だけでなく、全教科の書字活動において、文字を正しく書くための環境整備が必要であると考え、常時机上に置いて活用する。



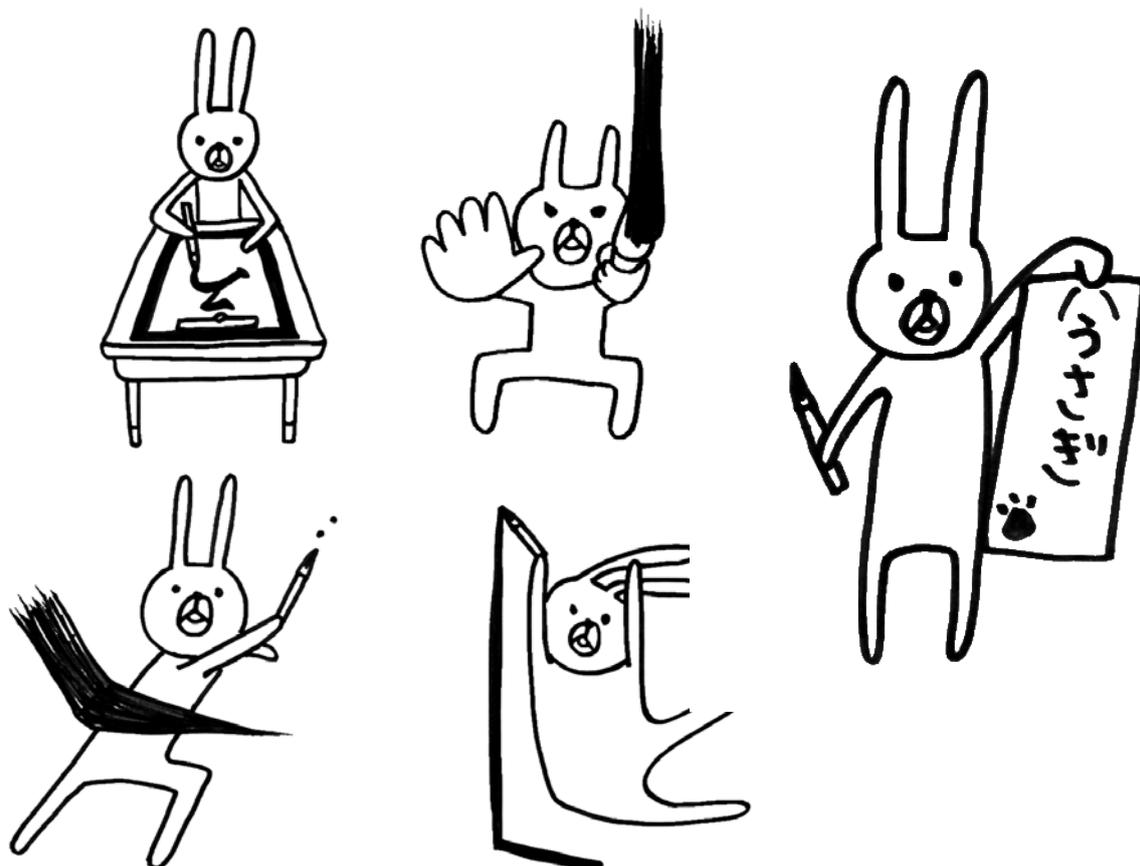
○動画コンテンツ

静止した手本だけでなく動く手本として、動画コンテンツを活用していく。繰り返し見せることができたり、動きを止めて確認させることができたりすることは、有効である。



○書写学習のキャラクター「どんちゃん」「しょうちゃん」

学習内容に興味関心が増すように、授業でキャラクターを登場させたり、掲示物の中に取り入れたりする。



(2) 意欲の育つ学習過程の工夫

形式的に手本の文字を見て書く授業から、自らめあてをもち、主体的に書写の授業に取り組む授業にすることが必要である。学習過程を、「つかむ→すすめる→確かめる→広げる」とすることで、児童に学習の流れがよく分かり、学習活動に見通しをもって取り組むことができる考えた。

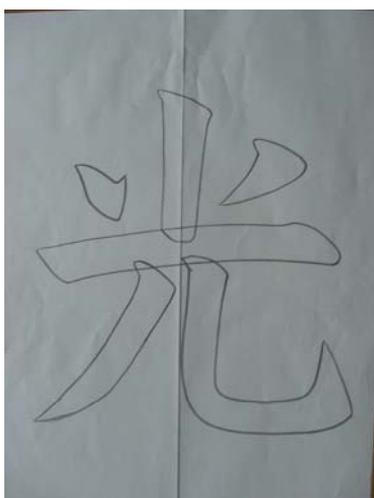
① 自分のめあてを明確につかませる工夫

- 手本を見ないで書いた試し書きと手本を比べ、自己批評をする。
- 自分のめあてを発表し、話し合うことで題材のねらいに合っためあてを明確にしていく。
- 自分のめあてを常に意識するために、手本にしるしを付ける。

② めあてに合った練習方法の工夫

○練習用紙の工夫

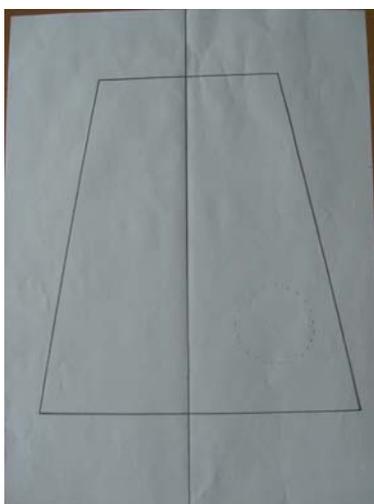
教師がいろいろな練習用紙を用意し、児童が自分のめあてに合った練習用紙を選べるように支援していく。高学年では児童自身が、自分のめあてに合った練習用紙を作ることができるようにする。



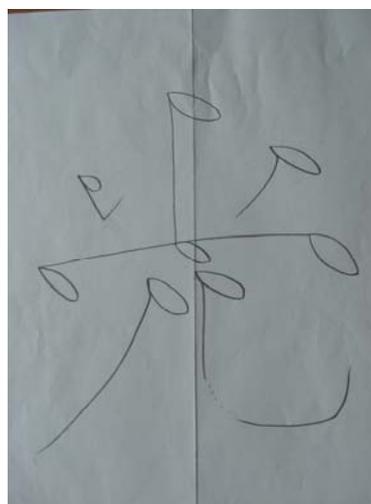
【籠字シート】



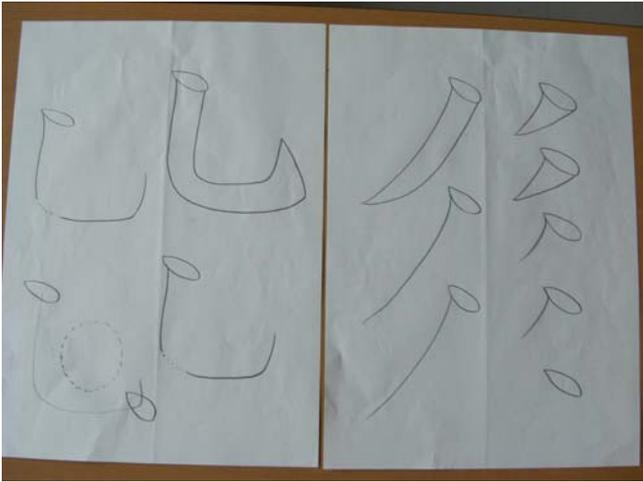
【骨書きシート】



【外形シート】



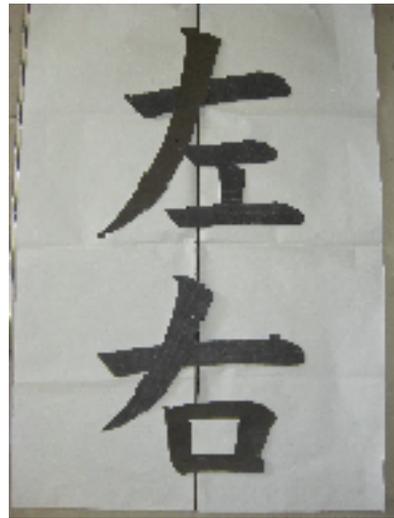
【穂先を示すシート】



【部分練習シート】

○分解文字や点画ピースを使って字形や文字の組み立てを考える場の設定

点画の接し方や文字の組み立て方を視覚的に捉えさせるため、分解文字や点画ピースを用いる。黒板に拡大した物を使用したり、実物大の物を練習コーナーに数セット用意したりする。



○水書用紙の活用

半紙と同じ大きさで、書きやすい、汚れないという利点があり乾けば何回も練習でき児童が緊張せずに文字を書くことができるため、練習コーナーの一つとして活用する。



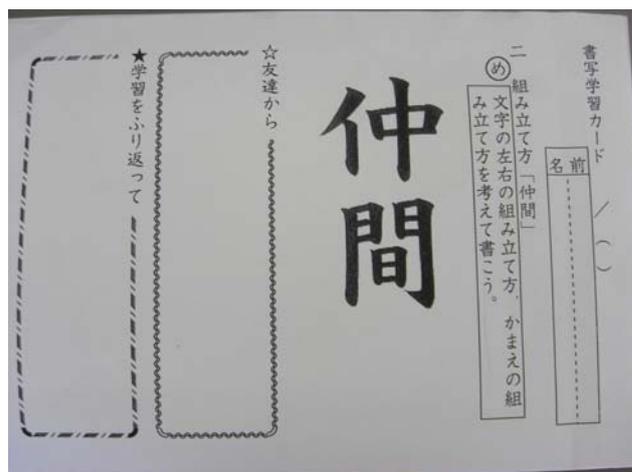
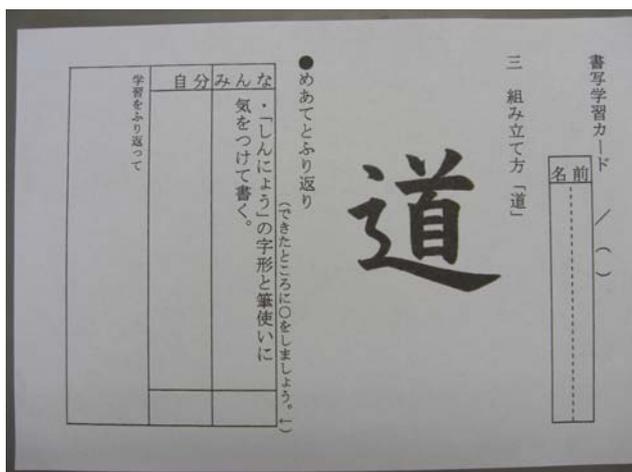
(3) 進歩した喜びを味わえる評価の工夫

自分の進歩が実感できたり、お互いの伸びが認め合えたりする評価になるよう自己評価や相互評価を授業の中に取り入れることとした。

① 自分の進歩やよさに気づく自己評価の仕方

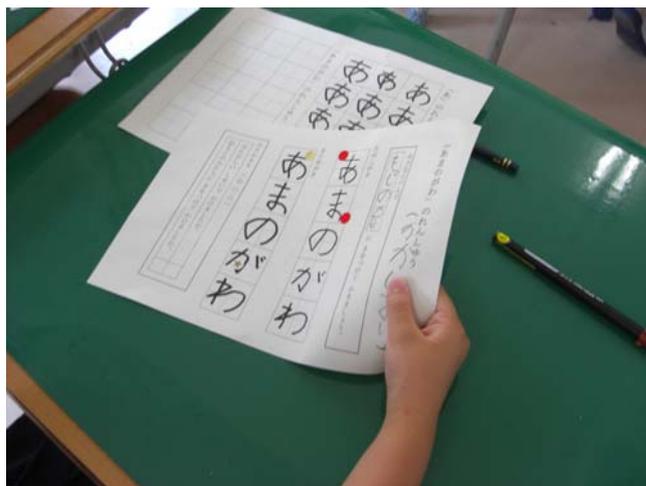
○学習カードの工夫

自分のめあてに沿った評価ができるように学習カードを作成した。短時間でめあてに向けて努力したことが視覚的に分かりやすく、進歩した喜びが味わえるように工夫をした。



○シールの活用

低学年では、まとめ書きの文字を自己評価し、上達した文字にシールを貼ることで、進歩した喜びが味わえるとともに、次のめあてがつかみやすくなる。



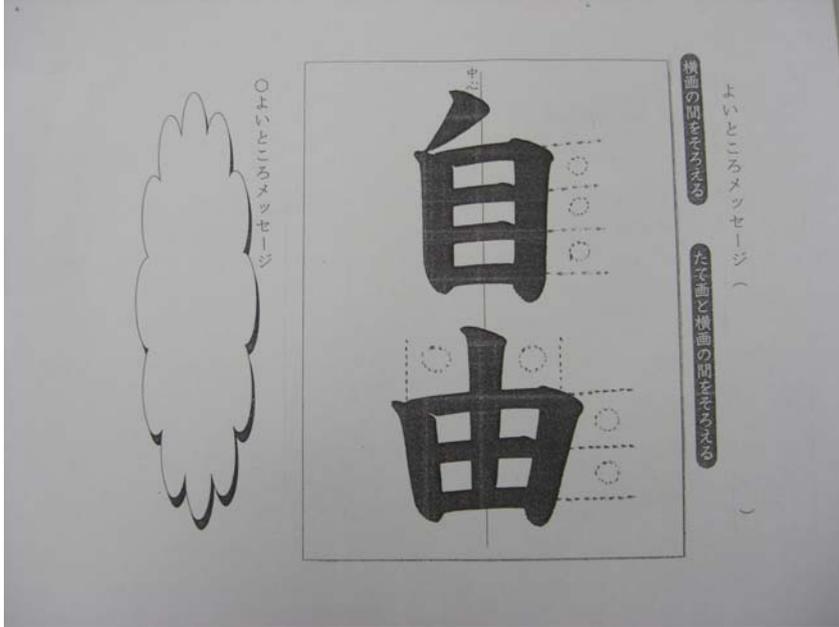
○技能の上達を正しく評価する力の育成

自分のめあてを振り返り、書写用語を用いて正しい評価ができるように、机間指導での教師の助言や、全体の場で試し書きとまとめ書きを比べる活動を取り入れる。

② お互いの進歩が認め合える相互評価の仕方

○メッセージカードの活用

学習カードの中に友達からのメッセージを書く欄を設け、お互いに進歩を認め合い、成就感や達成感をもたせたい。



○シールの活用

友達のよいところや伸びを見つけ、まとめ書きや手本にシールを貼り、お互いの上達を認め合い、自己評価では見つけられなかった進歩が分かり、充実感がえられ学習意欲を高めることができる。



○学習形態の工夫

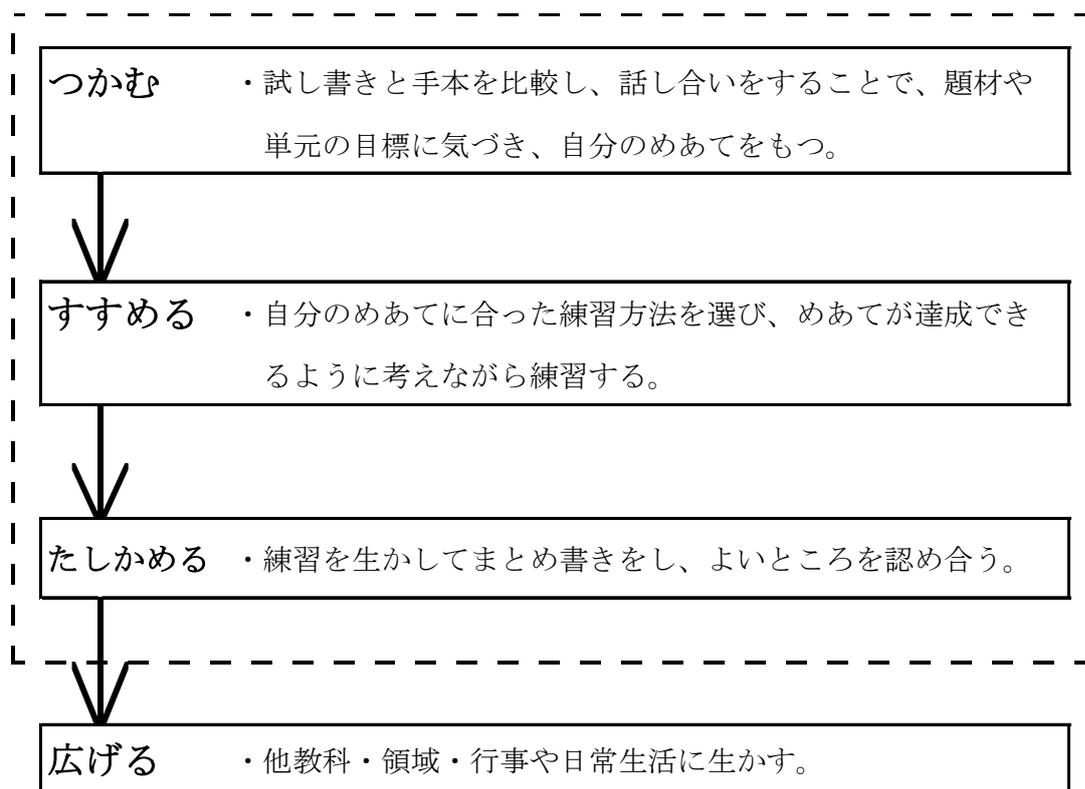
相互評価がしやすくなるような座席配置を工夫する。また、話し合いがスムーズにできるように、めあてごとのグループ作りを取り入れる。

○書写コーナー

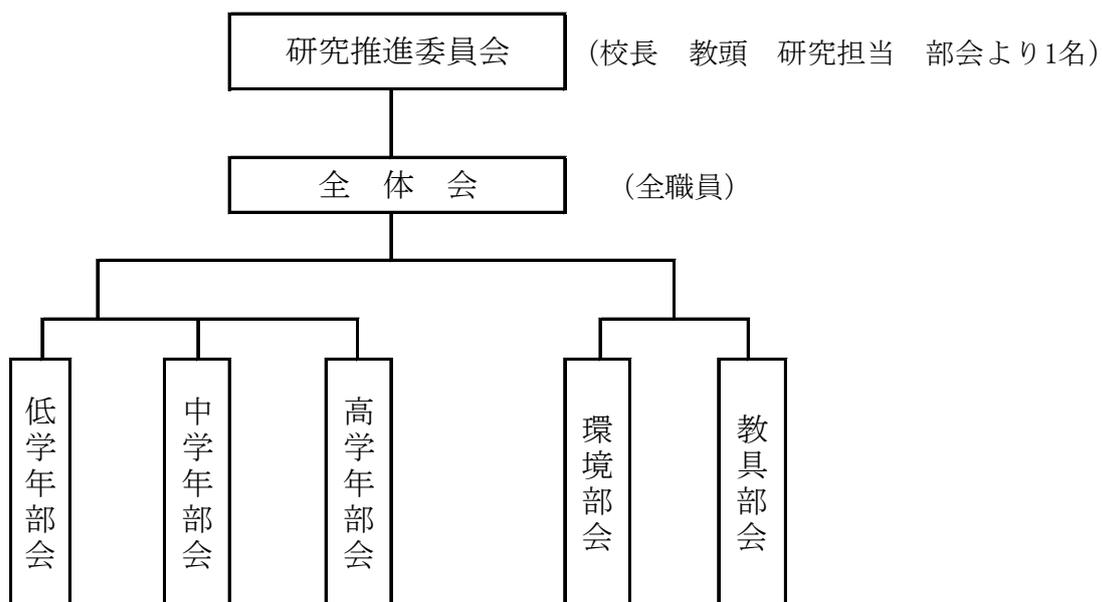
試し書きとまとめ書きを掲示し、友達の上達やがんばりを見つける場とする。
 また、他の学年の作品を鑑賞する場とする。
 各学年の書写コーナーには、書写の授業で学習した内容や他教科との関連で書いた作品を掲示し、文字環境を整えるようにする。



6 学習過程



7 研究組織



4 成果と課題

○本校では、研究の視点を次のように設定し研究を進めてきた。

- ・ 基礎基本の重視
- ・ 意欲の育つ学習過程の工夫
- ・ 進歩した喜びを味わえる評価の工夫

この3点について成果と課題を考える。

《基礎基本の重視》

書写の基礎基本とは何かを考え、各学年の年間指導計画の中に指導内容として位置づけたことで、いつどこで何を指導すればよいか明らかになり、基礎基本を重視した系統性のある指導ができた。なかでも、基礎基本の指導内容を毎時間の書写の時間に盛り込み、評価することで、正しい姿勢や執筆に気をつけたり、筆順、字形、文字の大きさ、字配り等を常に意識したりする児童が増えてきた。

また、基礎基本の定着のため、教材教具の研究を進め、モール、粘土、ホワイトボード等の教具を授業に取り入れたことで、児童の学習意欲も高めることもできた。

しかし、基礎基本を既習事項として自分のものとし、生活や他の教科に活用していこうとするところまで至っていない。また、目的に応じた教具は整備されつつあるが、発達段階に応じた個別の教材教具のありかたや使い方についてはまだまだ工夫していかなければならない。

《意欲の育つ学習過程の工夫》

学習過程「つかむ・すすめる・かめる・広げる」は、全学年で学習方法として定着してきており、それぞれの過程で活動の工夫をすることで、児童は見通しをもって学習に意欲的に取り組めるようになってきた。つかむ過程では、手本と比べて自己批評することで「上手に書きたい」という漠然としためあてではなく、「右払いを正しく書きたい」「横画を右上がりに書きたい」など、観点のはっきりしためあてがもてるようになってきた。すすめる過程では、自分のめあてにあった練習方法を選択することで、進んで練習に取り組む姿が見られるようになり、確かめる過程では、試し書きとまとめ書きを比べることにより、自分の上達を実感することができ、次への意欲の高まりが感じられるようになってきている。

しかし、広げる過程では、書写の時間に学習したことを他教科や他領域に十分生かすことができていない。今後、さらに生活科や総合的な学習の時間との関連を考えていく必要がある。

《進歩した喜びを味わえる評価の工夫》

自分の進歩が実感できたり、お互いの伸びが認め合えたりするように自己評価や相互評価を取り入れることにより、自分の字に自信がなかった児童が友達に認められることで成就感を味わったり、めあてに沿って自己評価できる力が育ってきたりしている。

しかし、まだまだ評価の観点が曖昧で、感覚や経験にたよるところがあるため、新学習指導要領をも踏まえながら、よりシャープなものにしていきたい。